

テーマ

第6回東東京緩和ケアネットワーク講演会

「東京都東部地区における在宅緩和と多職種協働ネットワークの向上にむけて」

申請者

東京臨海病院 櫻井則男

助成対象年度

2013年度後期

提出年月日

2014年11月15日

2014年10月11日（土）、東京臨海病院にて、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団より助成を頂き、地域の緩和ケアネットワークづくりを目的とした講演会を開催しましたので、ここに報告させていただきます。

世界ホスピス緩和ケアデーを開催日に設定し、すでに地域で在宅医療・緩和ケアに深く関わっている方を対象にお声かけして事前登録とし、地域のキーパーソン70人の方が参加されました。今回の講演会では、在宅緩和に関する多職種協働ネットワークづくりに積極的に取り組まれている、松戸市・川越正平先生と神戸市・宇野さつき先生より様々なヒントを頂き、「東京都東部地区のこれから」を話し合ってもらくことを意図して準備を進めました。その結果、ホスピス・大学病院・一般病院勤務の医師・看護師・薬剤師・MSW、在宅診療に関わる医師・訪問看護師・薬剤師、江戸川医師会の地域包括担当理事・訪問看護担当理事・看護ステーション所長、江戸川区介護保険課など立場の異なる多職種の方々に参加を頂くことができました。また、講演会全体の質を高めるために、日本老年学会、日本在宅医学会、日本緩和医療学会の理事や各学会専門医にも参加して頂きました。

#### 講演1 川越正平先生

「在宅緩和における多職種協働のあり方～松戸市における地域包括ケアの展開」  
がん終末期の口腔ケアに歯科衛生師がかかわるなど多職種協働の実際例、地域の在宅・訪問介護の供給体制など医療資源の状況を把握したうえで地域ぐるみで行う戦略的な対応、高齢者の救急搬送のルール・要介護認定など地域の取り決め（規範的統合）の実際例、職能ごとの組織づくりや関係性の構築・行政と医師会との連動・市民のかかわりなどについてお話して頂きました。

#### 講演2 宇野さつき先生

「在宅緩和ケアの質向上への取り組み～神戸西在宅ケアネットワークなどの経験から」  
地域をフィールドに活動する「がん看護専門看護師」として、院内の活動や、神戸市西部で熱心に在宅医療に取り組んでいる4診療所の医師・看護師を中心としたネットワークでの活動、地域連携を良くして在宅緩和ケアの充実させる工夫、地域の多職種との連携による「移動式プラネタリウム」や「落語会」などの緩和ケアサロンの実施、地域での医療職・介護職への教育・実践支援

を担う場として「地域緩和ケアサポート・すばる」の開業とその活動などについてお話しして頂きました。

### 講演3 井上肇先生

「都市の高齢化と看取り～一步離れて感じること」

これからの40年の高齢化について、有史から1900年まで、1900年から2050年まで、2050年以降の日本の長期的な人口推移から、現在を含む今後40年が歴史的な転換期であること、また単なる高齢化ではなく増加するのは75才以上の人口比率であるというデータを提示。さらなる都市化や地方の衰退、単身世帯の増加など家族の変化、地域のつながりの希薄化などは、東京だけにとどまらず世界中の都市が後追いつする現象であると指摘。人類史上初めて天寿社会（天寿を全うすることのできる社会）を迎える日本は、世界が注目する中、今後50年に2つの波（団塊とジュニア）を見送ることになる。日本社会の未来は、行政や医療者のみならず、我々市民・住民がどのように人とつながり、地域とかかわりをもつかにかかっているのではないかと問題提起されました。

### 講演4 首藤真理子先生

「在宅緩和ケアの実際～患者の日常とともに歩む」

葛飾区で開業する在宅療養支援診療所・日本緩和医療学会および日本在宅医学会の認定研修施設である「わたクリニック」での活動について報告。2010年は在宅診療を行ったがん患者の総死亡者数248人のうち、在宅で死亡した患者は207人と在宅看取り率は83%にもなります。また、東京都の在宅死亡率は平均すると12%であるのに対し、葛飾区では21%と高く、わたクリニックの活躍が目立ちます。非がん患者に比べて症状変化の早いがん末期の患者に対して、しっかりと疼痛コントロールをするためのPCAポンプの使用法、在宅での腹水穿刺、皮膚転移症例での多職種連携などの在宅緩和の実際についてお話しして頂きました。

### 講演5 行田泰明先生

「要町方式のすすめ～緩和ケアのアウトリーチ」

まず、在宅緩和ケアの裾野をひろげるための問題点を指摘し、がん患者の病態を理解し対応できる医療者・介護職の育成について言及。以前の職場である要

町病院では、大学病院やがん専門病院から紹介入院となったがん患者の症状緩和にあたり、患者の在宅療養への移行後は、併設する要町ホームケアクリニックのスタッフとして往診するという診療スタイルについて紹介。病院でも在宅でも同じ主治医が顔を見せることで、再入院や再在宅移行も含め、患者は希望にそった療養の場が容易に選択でき、高い安心感を得ることができるなどの利点を説明。がん治療と一般病院、在宅が密に連携を取ることは重要ですが、地域の一般病院が在宅療養支援診療所を併設したり、一般病院勤務医が在宅診療所で非常勤勤務したり、在宅医が一般病院の外来を担当したりして、緩和ケア医が病院と地域を行き来する、緩和ケアのアウトリーチも在宅緩和ケアの裾野をひろげるのに役立つのではないかと、経験に基づいた提案をされました。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

## 感想

非がん患者を対象にした在宅医療とがん患者を対象にした在宅医療には、共通点や相違点があり、これからの地域包括ケアの広がりや質の向上に関しては、やはり在宅緩和の特殊性を理解し対応できる医療者・介護者の育成が重要であることを学びました。また今後の超高齢化社会や、地域社会とかわりがない若年者・生涯独身者の増加を背景とした、在宅ニーズの増加と質の変化を考えると、医療と社会のあり方をしっかりと見据える力が必要です。今後は、演者の先生方のようなリーダー的診療所とともに、在宅医の教育やボランティアの育成に関わることができるとよいと思いました。

また、甲斐先生からは、患者・家族の満足といってもどれだけ本当の満足感といえるのかという主旨のコメントがありました。演者・参加者とも経験豊かな方々ですので、学問的な評価に耐えうるような成果を残し、客観的な評価をもとに政策提言などを行い、これからの緩和・在宅を真に良いものにしていくようにという激励と受け取りました。

講演会準備段階で、参加者を選抜して事前予約とし、講演会終了後は、お茶をのみながらゆっくりとお話できる緩和ケアカフェを開催しました。多くの学びとともに、地域のキーパーソンがお互いを知り、今後の地域づくりを一緒にやっっていこうと思いを新にするよい機会になったと思います。

## 講演会進行表

司会 当番幹事 東京臨海病院 消化器科・櫻井則男、MSW・浅山倫子

14時30分～14時35分 開会挨拶 河合尚基先生（緩和ケアカフェの案内含む・浅山）

14時35分～14時40分 講演会第1部準備、座長紹介（浅山）

新代表幹事・三宅先生より東京緩和ケアネットワークの紹介

座長・講演1～3を三宅先生、4～5を川越先生が担当

14時40分～15時00分 講演1 川越正平先生

「在宅緩和における多職種協働のあり方～松戸市における地域包括ケアの展開」

指定発言 江戸川区介護保険課 服部良太様

15時00分～15時20分 講演2 宇野さつき先生

「在宅緩和ケアの質向上への取り組み～神戸西在宅ケアネットワークなどの経験から」

指定発言 江戸川区医師会 訪問看護担当理事 塚本浩先生

15時20分～15時40分 講演3 井上肇先生

「都市の高齢化と看取り～一歩離れて感じること」

指定発言 江戸川区医師会 訪問看護ステーション所長 杉浦美代子様

指定発言 江戸川区医会 地域包括担当理事 小川勝先生

15時40分～15時50分 休憩

15時50分～16時10分 講演4 首藤真理子先生

「在宅緩和の実際～患者の日常とともに歩む」

指定発言 聖路加国際病院・緩和ケア病棟 林章敏先生

16時10分～16時30分 講演5 行田泰明先生

「要町方式のすすめ～緩和ケアのアウトリーチ」

指定発言 江戸川病院・緩和ケアチーム 後藤宏顕先生

16時30分～16時35分 フリーコメント

日本老年学会・理事長・東大名誉教授 甲斐一郎先生

16時35分～16時45分 休憩・第2部準備（緩和ケアカフェの案内含む・浅山）

16時45分～17時05分 第2部 ディスカッションおよび質疑

座長・川越先生・三宅先生

17時05分～17時10分 コメントおよび閉会の挨拶、緩和ケアカフェの案内

厚生労働省 がん対策健康増進課 瀨卓至先生

東京臨海病院 櫻井則男

17時15分～18時00分 2階食堂にて緩和ケアカフェを開催します。

## 演者紹介

川越正平先生

医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所理事長・院長

## 略歴

1991年 東京医科歯科大学医学部卒業

1996年 虎の門病院血液科

1999年 医師3名によるグループ診療の形態であおぞら診療所を開設

2004年 あおぞら診療所院長

2012年 医療法人財団千葉健愛会理事長

東京医科歯科大学 臨床教授、

東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員

日本在宅医学会 理事（大会運営委員会委員長）

日本在宅医療学会評議員、日本プライマリ・ケア連合学会代議員

日本緩和医療学会代議員、全国在宅療養支援診療所連絡会全国世話人

虎の門病院がんサポートチーム、

厚生労働省モデル事業 在宅医療連携拠点事業・受託機関（2011年～）

第1回杉浦地域医療振興賞受賞（2012年）

地域包括ケア研究会委員（2013年）

松戸市医師会 在宅医療担当理事（2014年）

## 著書

在宅医療バイブル（編著・日本医事新報社）

君はどんな医師になりたいのかー「主治医」を目指して（共著・医学書院）など

## 他己紹介（文責 櫻井則男）

医師として真摯に診療にあたることはもちろん、多職種連携の研修や在宅医療医を育てる教育活動にも力をいれています。在宅医療の質向上を目指して、「臨床」「教育」「研究」「政策提言」「連携」を実践し、地域のつながりを深める活動に積極的に取り組んでいます。

宇野さつき先生

新国内科医院・がん看護専門看護師、地域緩和ケアサポート・すばる所長

略歴

兵庫県立看護大学卒業、新国内科医院・看護師長

2013年 地域緩和ケアサポート・すばるを開業

他己紹介（文責 櫻井則男）

神戸西在宅ケアネットワークのキーパーソンです。

在宅現場での看護師長としての仕事に加え、学びの場としての事業所・すばるを2013年5月に開業しました。地域の医療・介護・福祉にかかわる方々を対象に、地域緩和ケア・看取りの研修会、認知症患者に対するユマニチュード勉強会、口腔ケアの基本とコツなどのさまざまな内容で在宅ケアを学ぶ機会を提供しています。

2012年日本緩和医療学会では、明石市立天文科学館と協力して、移動式プラネタリウムを活用した緩和ケアサロンの展示をされました。

井上肇先生

厚生労働省 健康局 結核感染症課・課長

略歴

鳥取大学医学部卒業・小児科

JICA フィリピン母子保健 専門家

厚生労働省入省 WHOマニラ事務局 千葉県庁

厚労省大臣官房・企画官（保険局医療課併任）などをへて2014年より現職

他己紹介（文責 櫻井則男）

臨床家として研鑽を積んだのち、東京大学大学院国際地域保健学科（第1期生）で国際保健学を学び、カンボジアやフィリピンで活動。その後、行政マンとなって、幅広い経験と能力を活かし、国民の健康・幸福のために頑張っています。

首藤真理子先生

医療法人社団淳友会わたクリニック・医長

2000年 宮崎医科大学卒業、2002年 大分医科大学第2外科入局

2005年 国立がんセンター中央病院 麻酔科緩和ケア

2007年 医学博士（広島大学）

2008年 わたクリニック、大分医師会立アルメイダ病院 緩和ケア内科

2014年 わたクリニック 医長

著書（共著） 在宅PCAの手引き 中外医学社

他己紹介（文責 櫻井則男）

現在、82人と数少ない緩和医療学会専門医のなかでも、在宅で働いている医師は全国でも10人たらずでしょう。在宅緩和の質を高めるためにも、しっかりと症状緩和がなされていることが基本。患者さん・家族とのお話も丁寧で、痛み以外のつらさにも細やかに対応されつつも、在宅PCAの手引きの本を出したり、講演で話されたりと、その技をひろめる活動も精力的にされています。

行田泰明先生

1987年 日本大学医学部卒業、日本大学医学部麻酔学教室助手

1991年 癌研附属病院麻酔科など

2003年 要町病院緩和ケア科部長

2006年 要町ホームケアクリニック副院長兼務

2013年 久保田げんきクリニック 2014年 退職

日本緩和医療学会代議員

がんプロフェッショナル養成講座 講師（東京医科歯科大・順天堂大学）

他己紹介（文責 櫻井則男）

日本緩和医療学会は設立20年を迎えますが、在宅緩和に対する取り組みが不十分であり、なんとかしたいと2006年より日本緩和医療学会代議員を務めています。そのお人柄で、多くの患者・スタッフを魅了し、在宅医療に関わるものの目標となっています。



# 第6回東東京緩和ケアネットワーク講演会

初秋の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
この度、第6回東東京緩和ケアネットワーク講演会を開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。  
大変ご多忙の折とは存じますが、東東京地域での連携構築のため、ご参加をご検討いただければ幸いです。

◆日 時：平成26年10月11日（土） 14：30～17：00 ◆場 所：東京臨海病院 第1・2会議室  
◆参加費：1,000円

## PROGRAM

◆14:30～14:40【開会挨拶】 河合 尚基 先生 東京臨海病院 診療総部長  
◆14:40～16:30

### 『東京都東部地区における在宅緩和と多職種協働ネットワークの向上に向けて』

(※この講演会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています)

≪座長≫ 三宅 智 先生 東京医科歯科大学・東東京緩和ケアネットワーク代表幹事  
川越 厚 先生 クリニック川越 パリアン代表  
≪コメンテーター≫ 林 章敏 先生 聖路加国際病院 緩和ケア科 部長  
甲斐一郎 先生 日本老年学会会長・東大名誉教授

#### 【第1部】

- ・講演1：『在宅緩和における多職種協働のあり方・松戸市や柏市の経験から』  
(医療・介護・福祉・生活支援が有機的につながるための工夫を学ぶ)  
川越 正平 先生 あおぞら診療所
- ・講演2：『在宅緩和ケアの質向上への取り組み・神戸西在宅ケアネットワークなどの経験から』  
(在宅緩和ケアの実際と地域ネットワークのコーディネーターの役割を学ぶ)  
宇野 さつき先生 新国内科医院・がん看護専門看護師、地域緩和ケアサポートすばる代表
- ・講演3：『都市の高齢化と看取り・行政から思うこと』  
(在宅ニーズの将来予測と行政の方向性について学ぶ)  
井上 肇 先生 厚生労働省

#### 【休憩】

- ・講演4：『在宅緩和の実際・患者の日常とともに歩む』  
(在宅看取り率の高いクリニックのがん疼痛薬物治療やケアの実践に学ぶ)  
首藤 真理子先生 わたクリニック
- ・講演5：『要町方式のすすめ・緩和ケアのアウトリーチ』  
(病院勤務医が地域に出ていく在宅緩和が患者の安心を高めることを学ぶ)  
行田 泰明 先生 緩和ケア医

#### 【第2部】

◆16:35～16:55【ディスカッションおよび質疑】  
◆16:55～17:00【閉会の挨拶】 櫻井 則男 東京臨海病院 消化器内科 医長

※ 講演会終了後に院内食堂にて「緩和ケアカフェ」を予定しております。

共催 : 東東京緩和ケアネットワーク  
: 武田薬品工業(株)/テルモ(株)